

# 無痛計画分娩のご案内

## <当院における無痛分娩方法変更について>

当院では、御希望がありかつ医学的適応に基づいた計画分娩が可能な方を対象とし、各出産予定月に限定人数のみ予約制で無痛計画分娩を施行しています。

### 1. 無痛分娩について

通常、麻酔後も運動機能は保持され、ご自身で「いきむ」ことは可能です。麻酔の効果により産道の筋肉の緊張も和らぎ、分娩所要時間は短縮され分娩時の裂傷も少なくなります。しかしながら、十分に「いきむ」ことができない場合もあり、その際には、母体のお腹を介して子宮を押して児を圧出するクリステル児頭圧出法や吸引分娩が必要となります。当院の経験では、吸引分娩施行率は約 25%です。なお、一般的に無痛分娩により帝王切開率が上昇することはないとされています。

### 2. 麻酔方法について

**硬膜外麻酔**：腰に注射する麻酔法の一つです。脊髄を覆っている硬膜の外側に直径 1mm 程の管を留置し、局所麻酔薬や麻薬系鎮痛薬を投与する方法です。痛みに合わせて自己調節できるボタンがついた PCA ポンプ（右図）を使用して硬膜の外側に局所麻酔薬や麻薬系鎮痛薬を注入します。

**脊髄くも膜下麻酔**：腰に注射する麻酔法の一つです。脊髄を覆うくも膜の中にある脳脊髄液中に局所麻酔薬を投与する方法です。注射後数分で痛みが消失し、3-4 時間程度効果が持続します。

### 3. 合併症について（括弧内は発症頻度）

血圧の低下（17-37%）、頭痛（1-2%）、悪心・嘔吐（1-2%）、下肢のしびれなどの運動神経障害（0.1%）、非常に稀ですが強い鎮静効果に伴う呼吸抑制、新生児無呼吸などを認めることがあります。また約 10%に硬膜外腔への麻酔針刺入や麻酔用の細い管の留置困難なことがあります。

### 4. その他

- ① 無痛分娩は、自費診療となります（無痛分娩管理料：自費 約 15 万円、返金不可）。また、安全な麻酔可能かどうかを確認するために、事前に外来にて血液・尿検査、心電図検査、胸部レントゲン検査（自費 約 3 万円、返金不可）を受け、麻酔科医と面談していただきます。
- ② 当院の無痛分娩は、陣痛発来前に陣痛促進剤を用いて分娩誘発を行う計画分娩となります。
- ③ 無痛計画分娩予定日前に自然に陣痛が発来した場合や破水に至った場合、無痛分娩は施行不可となり、希望により和痛分娩による産痛緩和を試みることであります。
- ④ 無痛計画分娩当日は、朝から陣痛促進剤を点滴します。本格的な陣痛が得られた後、硬膜外麻酔単独、または、硬膜外麻酔と脊髄くも膜下麻酔を併用し、産痛を緩和します。
- ⑤ 無痛計画分娩では、有効陣痛が得られず分娩に至らないことがあります。その場合も入院費用や無痛分娩管理料（自費 約 15 万円、返金不可）が発生します。また、受け入れ人数の都合上、後日改めて無痛計画分娩を試みることであります。

\*無痛計画分娩の受け入れ枠には限りがあります。無痛計画分娩をご希望される場合にはできるかぎりお早めに外来担当医にお申し出ください。

#### PCA ポンプとは...

痛みが出てきたら、ポンプについている白いボタンを押して下さい。一定量の鎮痛薬が注入されるように設定されています。鎮痛薬を安全に使用できるように自動調節されており、薬の使いすぎを心配せずに使用できます。

